

# 『オリエンテーリング』

曾我部成一

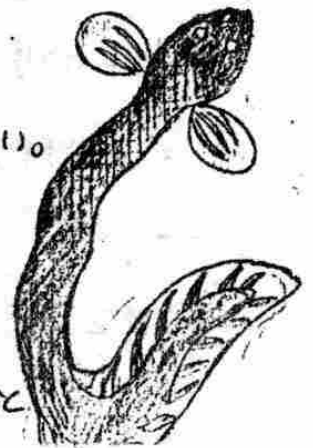
「オリエンテーリング」という言葉、今では誰でも知っているだろう。そう、コンパスと地図を手にチェックポイントを求めて野山を歩き回り、その時間を競うものだ。ところで「この間、サイクルオリエンテーリングをやった」と友人に言ると「へえ、自転車でオリエンテーリングなんてやるの?」と必ず返ってくる。かく言う私もTITCCに入るまで知らなかったのだが……

まあとにかく、今年(昭和51年)1月16日、TITCCOLが神奈川県厚木市周辺で大々的(?)に行なわれたのである。参加者は次の通り。小島(4)、栗原(2)、沢木(2)、鈴木(2)、富田(2)、名取(2)、小野(1)、小島(1)、鈴木(1)、曾我部(1)、古木(1)、三浦(1) (五十音順、敬称略)

◎第一幕、新宿駅にて……「あれ、鈴木、何じゃその格好は。ワシャ、どっかの高校生かと思ったゾ!」と名取さん。そう、「茨木のらなギ」のイメージよりしくあの鈴木君は異の、高校生が学制服の上から着るコートをもとっていたのだ。この出立で輪行車をついでいる姿を想像してみよ!

全く、個性がにじみ出ているとしか言いようが無い。

◎第二幕、厚木駅前……自転車を組み立て  
出走を待つ。藤沢に住んでいるながら「大塚」とい  
う山手線の駅名を持った人がカゼをひいて来ないと



いう。私は順番を繰り上げてもらい彼の所へ入り込んだ。1:57スタート。まず、配点50点のお寺へ向かう。お、と、ここでTITCCOLの内容について少し触れておこう。まず、スタート30分前にチェックポイントを自分の地形図に赤ボールペンで書き込む。同時に問題及び解答用紙をもらう。それぞれのチェックポイントにより配点は5い50とまちまち。ゴールは指定されており、制限時間は2時間。どこをどう回るかは各自の自由。スタートまでに線密かつ適当(?)にコースを決める。得点の多い人が勝つ事は言うまでもない。1分遅刻する毎に-3点となる。

◎第三幕、東奔西走-----最初の寺は50点の最高点だけに中々わかりにくい。時計を見ると早や30分経過している。「面倒臭い、ここで曲がるう」と持ち前の「投げやり」な性格が早くも出現。ところがこれが見事約中! 無事解答を書き込む。次のチェックポイントに向かって走り出すと、後ろから「オノノ」という鈴木先輩の声。「ドゥシテ? ドゥシテ俺が小野ナノ? オセエテ!」と思いつつも後ろを振り向き、手を振り愛想を振りまいた。以後、ゴールの鶴巻温泉駅の位置を考えつつコースを辿った。人間の考える事なると大差ない。これから先は、小島さん、沢木さん、富田さんとほとんど行動を共にした。(と言っても、私は少々遅れ気味に付いていった。前の人達がポイントを見つけてくれるので大助かり) その事に気付いたのか「俺が呼び止めなかったら、警視部は知らないうち通り過ぎっていたんだゾ」とは沢木さんの

声。(ああ、この一言さえ言わなければ良い先輩なのにね) ←  
陸の声) 喘止の地蔵というポイントでヘアニング。目にゴミが  
入ってしまい御先真暗、ハードコンタクトレンズの弱味をつかれ  
てしまった。近くに水道は無いし、10分近く涙ホロホロ流して立  
ち往生。そろそろ焦りを感じ始めた。伊勢原の学校のマークを書  
き終えた時残り時間25分。「もう30点かせいでやるう」と神社に  
向かう。この神社、幅50cm位の狭い道を10m位入った所に有った。  
それにしても、郵便局の積算電カ計の番号やら神社の石段の教や  
ら、我々をひっかけようという魂胆が至る所に見られる。問  
題を作った人の人柄が偲ばれるようだ。(尚、問題を作ったのは  
野崎さんと宝谷さん) 「さあ、後は鶴巻温泉駅までひとっ走り  
だ」とばかりに地図を覗き込めと……アレイ?! 道が無いヨ!  
直線の道があるとばかり思っていた所は一面の田こぼ、鶴巻温泉  
駅に行くには伊勢原市内を通り、小田急線を一度またがねばなら  
ない事に気付き唖然! 残り時間10分で5kmはキツイ。以後は  
タイムトライアルに変貌、田の畔道を走りマッドガードとタイヤ  
の間に泥をつめたり、変な工場に迷い込んだりしながらも必死で  
走った。しかし……天は我を見捨てた。10分遅れで-30点。何  
の為に最後の神社に行ったかわからなくなってしまった。おまけ  
に「お前、オリエンテーリングで時間オーバーするなんて最低だ  
ヨ」と富田さんに言われてしまい増々意気消沈。しかし、逆に考  
えると他の人達より10分間も早く走った、ということになるでは  
-15-

ないか。そう思ったか否かは知らないが、古木だけは「カンバッ  
タナハ」と言ってくれた。

◎第四幕、成績発表………スーゴ・御菓子を争って食べ、落  
ち着いたところで成績発表。「第一位、鈴木クン。第二位、曾我部  
クン、以下略……。」と言う訳で私は鈴木先輩に次いで二位、賞  
品はگریス2個。「なんだ、この間買、たばかりなのに」と私が  
言うと「گریスは消耗品だから残っ持、てた、て良いノダ！」と  
沢木さん。その癖、沢木さんの賞品であるセーフティライトを取  
り替えて欲しいと言、ても、全然相手にしてくれなかった。

何にしても、好天に恵まれ楽しい一日だった。

◎第五幕、奇跡の大逆転→電卓は神様です………翌17日、宝  
谷さんの計算間違い判明。私と鈴木さんは同点だったのだ。しか  
しタイムオーバーしてゐる私は二位のまま、残念!

ここで終わりと思、た諸君、まだ先があるんダヨ! その又翌  
日の18日、又々計算ミス判明。何と、私が一位なのたえうな。  
「ヘエ、えうなの」と、まるで人ごとのような感じ。一位の賞  
品であるインフレーターを手にしても、別に感激の涙にむせぶこ  
ともなかった。「今や、電卓は生活必需品になりつつある」というラ  
がOLで得た結論。

